

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100611		
法人名	有限会社 メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホームやすらぎ	ユニット名	
所在地	長崎市岩屋町25番7号		
自己評価作成日	平成26年5月6日	評価結果市町村受理日	平成26年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年5月20日	評価確定日	平成26年6月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在の地に法人を構えて40数余年、地域に根差した医院が母体の複合介護保険サービス事業所の一つであり、地域の方々にも馴染み深い。交通の利便性も良くJR道の尾駅やバス停も近くタクシーの通行量も多い。また近くには大型スーパー、銀行、郵便局もあり生活するにあたってとても便利である。グループホームとしては珍しく24時間体制で看護師が勤務していることや、心療内科が併設されていること、テナントとして同じ建物内に整形外科、皮膚科があることで他科受診付き添いのご家族の負担軽減と安心感に繋がりが感謝のお言葉をご利用者のご家族から頂いている。

“よなわグループホームやすらぎ”では職員の実績や挨拶も温かく、24時間の医療連携を図りながら、日々の生活支援が続けられている。リハビリの視点も大切にされており、足の屈伸運動や起立訓練、転倒時の予防などのために、フロアの至る所に手すりバーが設置され、5階の通所サービスのリハビリ機器も利用させて頂いている。新聞を読む事が日課だった方のために、グループホーム用に新聞を取り、毎日読んで頂いたり、日々の生活の中で、役割を持って過ごして頂く事も日常となってきた。25年度は認知症サポートリーダーの方が防火訓練に参加して下さい、中学校の文化祭では生徒の方々が車椅子を抱えて下さり、文化祭を見学する事もできた。地域包括の方からの紹介もあり、滑石小学校4年生との交流も行われ、ご利用者も楽しいひと時を過ごす事ができた。26年度に入り、馴染みの職員も増えてきた事から、今後も管理者を中心に、更なる質の向上を目指しており、アセスメント記録や日々のケア記録の検討も深めていく予定にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後全員で声を出して理念を言い、共有し合って日常の援助に努めている所である。	「家庭的な雰囲気の中で安心して生活の実現をめざす」という理念を大切にされている。”家庭的”という視点で、食後に箸などを洗って頂いたり、行事の時はご利用者と一緒にホットケーキを焼かれている。”安心”という視点では健康管理に努め、医師との連携も迅速に行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りの時事業所の近所にお住いのお宅を訪ねて、スイカ割のスイカをおすそ分けして、来年の夏祭りへの参加をお願いした。スーパーの買い物支援時は挨拶を交わしている。	25年度は認知症サポートリーダーを交えて、各事業所の代表者と情報交換が行われたり、リーダーの方が防火訓練に参加して下さった。中学校の文化祭では生徒の方々が車椅子を抱えて下さったり、地域包括の方からの紹介もあり、滑石小学校4年生との交流も行われた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のとき、「認知症」の資料を基にレクチャーを行ったり、離設の可能性がある方が施設にいらっしゃる事を話した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「癒しの為にアロマセラピーなどを取り入れたらどうですか？」との意見を頂いたが実践に至っていない。	会議では自己評価(外部評価)の結果も報告しており、日頃の頑張りに対するお褒めの言葉を頂く事ができた。日々の取り組みや災害対策に関する情報交換も行われ、それぞれの立場からアドバイスを頂いている。今後は、警察や消防署の方にも参加して頂ければと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談があった時連絡を取り合い、協力を頂いた。	書類提出などで市役所に出向いた時や、実施指導の時に相談をしている。身体拘束の定義などを相談した時も、適宜、ご指導を頂いている。運営推進会議には地域包括の方(毎回)や市役所の方(年1回程度)も参加して下さい、ホームの状況を理解して下さい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解するために研修に参加して、参加後はミーティングなどで伝達講習をしている。離設の可能性に対しては玄関の施錠はせずセンサーマットを玄関に設置して対応している。	職員研修が行われ、院長先生からの講義も行われている。身体拘束を行わないケアに努めており、家族にもホームの方針を理解して頂いている。今後も引き続き、ご本人の喜怒哀楽に寄り添うと共に、身体拘束をしないための方策を複数検討し、記録に残していく予定にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修に参加するように計画を立てている。お互いが学んだことを念頭に入れて支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加してもらっている。入居問い合わせのご家族の中には後見人という方が参加されるようになった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読みご家族に説明している。疑問点などに対しては納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は話す機会を必ず作りコミュニケーションをとっている。意見箱を玄関に設置している。	家族の面会時などに「何かありませんか?」と意向を尋ねており、面会時の意見交換も行っている。毎月、通信を作成しており、26年からは職員一人一人が寄せ書きを行い、日頃の暮らしぶりを家族の方に報告している。行事のご案内も行い、往復はがきでお返事を頂くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どのような研修を受けて自分のスキルを上げたいのか自分に足りない所を考えて貰い、研修に参加してもらっている。	組織全体で各事業所を支える仕組みが作られている。管理者会議やミーティングの時に職員との意見交換が行われ、職員の入れ変わりに伴い、一時期、他部署からの応援体制も取られた。26年度になり、ようやく人員体制も整ってきており、職員個々の得意分野も発揮されている。	新しい職員が増えている中、管理者を中心にチームワークは良くなっている。26年度は、更なる質の向上に向けた取り組みを始めていく予定であり、職員個々のアイデアや意見を伝えやすい環境を作っていきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夫の扶養者のスタッフは希望通りの時間数で勤務して貰っている。夜勤不可能者は日勤のみになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を評価しながら努力が必要な研修に参加してもらって、実践で活かしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の認知症サポートリーダーを交えて、各事業所の代表者が集まる公民館講座に参加して、情報交換した。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に話をゆっくり傾聴してニーズを聞き出し、サマリー、アナムネーゼ、さらにはカードックスを利用して情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に話をゆっくり傾聴してニーズを聞き出し、サマリー、アナムネーゼ、さらにはカードックスを利用して情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリーや傾聴でコミュニケーションづくりに努め、支援できる事を見極め他の医療機関と連携を図って、安心して生活ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コップ、箸、エプロン、洗濯たたみなどの家事手伝いに参加協力して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣類、ティッシュペーパーなど足りない物がある時や電話をかけたい要望や面会を希望しているときなどご家族と連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご姉妹等知人が面会にいらした時、再来所をお願いしている。	故郷を寝言で言われる方もおられ、日々の生活の中から生活歴や馴染みの場所などの把握を続けている。家族とお墓参りに行かれたり、親戚や知人の方がホームに来られている。年賀状を下さる方もおられ、大切に保管している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや食事の気分の合った人同士を隣の席にしたり、レクレーション時など集まる時は声掛けをしている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に救急搬送した方のご家族に電話して病状を尋ねたり、次の転院先はMSWに相談したらいいですよと困りごとのアドバイスをした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビを見るのが好きな方は、居室でも見る事ができるようにご家族と相談して設置している。	理念にある“家庭的”という姿勢を大切にされており、食事の時や食後、入浴時や居室を訪問した時など、ご利用者とお話をされている。表情やしぐさも丁寧に観察し、難聴の方にはホワイトボードを使って筆談をしている。	今後も引き続き、ご利用者個別の思いを把握していきたいと考えている。更にご本人の思いをゆっくり聞ける時間を増やすと共に、把握できた要望や生活歴などを、アセスメント用紙に残していく予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新聞を読むのが日課だった方のために、グループホーム用に新聞をとって楽しんで読んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	興味があり好んで下さる家事手伝いや植木の水やりを無理強いないようにしながら、して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファランスを行い、職員の意見を反映して介護計画を立てている。	ケアマネが中心となり計画を作成している。ミーティングで情報共有し、職員全員でモニタリングを行っている。家族の意向も確認し、新聞購読などの生活歴などを含め、ご利用者個別の計画を作成している。今後も、計画に即した日々のケアを記録していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録を心掛け情報共有して、見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話を傾聴している中で何を求めているか察知して出来るだけ早く対応できるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では支援できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じてどの医療機関に受診するかを報告している。	平日、院長先生が来て下さり、ご利用者も楽しみにされている。よなわ医院への受診は職員が行い、家族が受診介助された場合も含めて、情報共有ができています。ホームの看護師が点滴等の管理も行い、看護師と介護職の情報交換もできています。歯科や皮膚科の往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの異常その他いつもと違うことを早期発見して連絡相談報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室、病院との関係を密にして電話やファックスでお互いが情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化があった時はご家族に連絡して面談を行っている。さらにどこまでの医療をご希望かを聞いてご希望に沿っている。	「ここで最期まで」と願われる方もおられ、25年度は3人の看取りケアが行われた。家族も一緒に宿泊し、手を握り、マッサージ等もして下さった。24時間体制で看護師が勤務し、主治医への報告も密に行われ、介護職とも連携し、誠心誠意のケアをさせて頂いた。後日、お孫さんから感謝のお手紙を頂き、職員の励みとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応マニュアルを作成して学習し、実際マニュアルを利用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月1回夜間想定、また出火場所を想定したりして工夫し、出来るだけ多くの職員が訓練に参加するようにしている。	長崎市のホーム火災がきっかけとなり、ホームでも毎月防災訓練が行われている。スプリンクラーも設置し、訓練時は点検業者の方に避難誘導の指導をして頂いている。25年12月には認知症サポートリーダーの方にも参加して頂き、意見を頂くことができた。災害に備え、水や缶詰、トルトのお粥などの他、医薬品なども準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時の教育でまず初めに学んでもらっている。	管理者は言葉遣いの大切さを職員に伝えており、「自分だったら」という視点を忘れず、羞恥心への配慮も続けている。ご利用者の尊厳やプライバシー保護に関する書籍も購入し、職員に貸し出している。家族の方からも、職員の言葉遣いへのお褒めの言葉を頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し、コミュニケーション作りをせず良い人間関係を作って、どうしたいのか、どちらが希望なのかなどの意思決定ができるような雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何気ない言葉から何を求めてどのようにしてほしいのか察して、希望に添える事ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は自らが着たい物を選んでいただき、リビングに出たり外出時は髪を整えている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭きやお茶や箸を配って頂いたり、昼食後のコップ、箸、エプロンを洗って頂いている。また出来る方にはご自分の下膳をして頂いている。	同じ707-の厨房で、委託業者の方が3食とも手作りしており、季節に応じた料理が作られている。食事中は職員も一緒に座り、難聴の方同士の間を取り持ち、会話ができるように配慮している。おはぎ作りを一緒に行う機会も作られている。	今後は、「ご飯」「パン」などの選択メニューなどを取り入れると共に、職員(1人)も同じ食事ができるシステムを検討する予定である。ご利用者への食事のアンケートもを行い、給食委員会で検討できればと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立てている。量には好みに応じて半量にしたり、脱水予防のため水分チェック表を用いて1000~1500mlは飲んで頂くようにし、誤嚥性肺炎予防のためトロメリンを使って頂いている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は洗面所まで誘導し歯磨き、義歯洗いをして頂き、出来ない方は職員がしている。食事を食べてない人は、誤嚥性肺炎予防のためにも職員が口腔ケアを毎日行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リビングで食事を済ませてそのまま居室に戻るのではなく、声掛けてトイレ誘導する事を続けた結果食事後の排泄習慣が付き今はポータブルトイレは夜のみとなった。	トイレでの排泄を大切にされている。職員は日々の様子を記録し、ご利用者の排泄感覚を把握するように努めている。パッドの種類も個別に検討し、布パンツを着用されている方も多い。おむつの当て方も職員間で共有し、ご本人本位の視点で検討が行われている。	車いすを利用されている方はアコーディオンカーテンのトイレを使用しているが、介助の様子が外から見える時もあるとの事。今後も諦めず、羞恥心への配慮の方法を検討していく予定である。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便表を作成し毎日1回排便があるように心掛けている。また水分摂取表をつくり飲水を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「午後からがいい」とおっしゃる方は午後から、「主人が来る明日の方がいい」とおっしゃる方は明日へとご希望に沿った支援をしている。	両ユニットの浴室を活用し、ご希望の入浴を行う事ができている。洗える所は洗って頂き、おむつ使用の方は毎日の陰部洗浄も行われている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯なども行われている。皮膚の弱い方は、愛用のシャブーなどを持参して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少し遅い時間でも好きな番組を見て頂いたり、熱いお茶を飲んでいただいたりしながら話を傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬入れの袋に薬と説明書を入れ読むようにしている。またカーデックスを利用して看護師が諸々注意を促して情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸が好きな方が材料が足りなくなった時はご家族に電話して持ってきていただいている。また好きなお菓子や梅干し、ふりかけをお預かりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	酸素吸入をしている方で「ちょっと外の空気を吸いたい」とおっしゃるかたのために、医師の許可をもらい敷地内を車椅子で散歩して頂いた。	「近くのツツジの花が綺麗なので見に行きたい」と言う要望があり、出かける事ができた。1階の医院に受診した帰りに薬局まで出かけたり、西友での買い物も楽しまれている。水辺の森公園や城栄公園、あぐりの丘、稲佐山などにもお連れしており、今後も少しの時間を活用し、気分転換の外出を続けていく予定である。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のご希望によりバッグに入れてご本人が所持して、買いたいものがある時は職員同伴でスーパーに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が封筒に宛名書き、切手を貼ったものを用意して下さっているので便箋にお便りを書いて投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関マットは常にコロコロで清掃し季節の花々や、置物を飾っている。トイレの場所が分かるよう目印のプレートを下げている。温度計湿度計で快適な環境づくりをしている。	2つのユニット同士が同じ階にあり、ご利用者同士の交流も行われている。家庭的な雰囲気作りを続けており、季節の壁飾りやお花を飾られている。以前のご利用者から、愛用されていた本棚や机などを頂き、リビングでレクの道具などを保管させて頂いている。リビングにはバーを設置し、足の屈伸運動などができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてゆったりとくつろいで会話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れた椅子を持ち込んで居室で読書したりして過ごして頂いている。	テレビやランオ、手芸用品(裁縫箱)等の他、家族の写真やアルバム、雑誌や軍艦等の本を持ち込まれている方もおられる。化粧品やブラシ、手鏡などを愛用されている方もおられ、入居年数と共に、ご利用者個々の居室になってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足の屈伸運動、起立訓練、転倒時の予防、安全のためにいたるところにバーを設置している。居室には表札をさげて迷うことがないようにしている。		